Disign and Evaluation of Instruction Based on Thinking Process of Children

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/24916

児童の思考過程を核にした授業の設計と評価

矢ヶ崎孝雄*・水越敏行**・社会科教育研究グループ***

1　研究のねらい

従来の授業研究は児童を相手にしながらも，どちらかといえば指導者の立場に立って目標が設定され，授業が立案，構成されてきた。また評価もその範囲において試みられてきたことも事実である。その結果，どうしても一部の子どもについては焦点はあてられるが，見逃される子どもも出てきたことも否めない。

そこで我々研究グループは，次の二点に研究のねらいをおき，この欠点をいくらかでもおぎなおうと試みたのがこの記録である。第一点は子どもの側に立った授業の設計，評価のあり方の望ましい方向をさぐることである。そのためには一人ひとりの子どもが学習に積極的に立ち向かうために必要な教材と子どもの意識の関係を重視し，その思考過程の変容を明らかにしていこうとしたことである。

第二点は，学習の主体である児童を少人数（2～3人）のグループに分け，マイクロティーチングによる授業試行を試みたことである。児童のつまづき，認識の度合を明確にすることが前に述べた欠点をおぎなう基礎的手段であると考えたからである。

なお一般に学習の中では，主として認知の領域（特に知識・技能）の学習に重点がおかれ，情意的領域（特に個性化）の育成，評価が軽視されるきらいがみられるので，この点についてもより重視することにした。本年度は，小学校6年の歴史単元の中から，従来あまり実践例の見られなかった「南蛮貿易と日本町」を取り上げ，この中で実証することにした。

2　研究の手順

(1)　授業の設計

a　目標分析と教材観の確立

我々は前にキーワードの抽出によるマトリックス法で歴史単元の目標の一般化に近づくための手法を実践した****。しかし，この方法が最良のものと果たしていえるかの反省に立つと共に，より普遍化でき，かつできるだけ一般化される目標設定の方法として，教科書の比較による内容の洗い出しと，その要素のとり出し法を今回はとった。さらに数人の児童を対象に資料をもとにした授業（マイクロテイーチング）を試み，目標分析の一助にした。と同時に，これまで以上に教材の考え方について児童の立場から検討を加えた。

b　事前調査をふまえた単元構成

教材として取り上げる「南蛮貿易と日本町」を天下統一の中に位置づけ，aで定めた目標を事前調査の結果を参考にして，入口と出口を明確にした上で構成した。

c　マイクロティーチングを使っての授業細案

単元構成に基づいた一次授業案を，今回はマイクロテーチングの手法を生かして二次授業案を作成した。この部分が我々の前に

*金沢大学教育学部
**大阪大学人間科学部
*** 仲谷外志子　金沢市立材木町小学校
野田　大介　金沢市立小坂小学校
花外　健男　金沢市立味噌蔵町小学校
細川　紀彦　金沢市教育委員会
村本外志雄　金沢市立浅野町小学校
屋敷　道明　金沢大学教育学部付属小学校
新保　賢良　研究協力員（現金沢市立駒帰小学校）

**** 水越敏行・金沢市社会科教育研究グループ「歴史学習における授業設計と評価」金沢大学教育学部教科教育研究第8号，1975。

も触れたが新しい試みのひとつでもある。授業案の修正法には，異った学校学級で授業をし，その結果から修正していく方法がよくとられる。しかし，子どもの思考のルート，変容のようすがあいまいなまま，全体としての印象で修正される場合が多かったことを反省し，この方法をとり入れたわけである。

(2) 授業の評価

目標分析に利用したキーワードを使った児童の思考の変容の評価法を前に実証してみたが，今回は，アナライザー利用による分節毎の評価の方法と，学習終了後の段階評価法の二つの立場から，一時限の学習の評価を考えてみた。

前者は，内容の確認，イメージの形成，資料のよみとりを中心に，後者は，到達度と発言回数及び資料の活用能力に視点をあてた。

以上の研究を進めるにあたり，マイクロテーチングのとり入れを含めて5回の研究授業を行った。

3　授業の設計

(1) 目標分析

授業設計を具体的にすすめていく基盤になるものは，目標である。では，いかにして目標を設定するかについて本研究でとり上げた「天下統一」(小単元・南蛮貿易と日本町)を例にして述べよう。

歴史学習を探究的にまた発見的に進めるために今まで数多くの実践例が報告されており，種々分析も行なわれてきた。我々の研究グループも過去に明治維新や鎌倉武士などを実践しながら，理数科のように公理がなく，法則性のはっきりしない社会科における目標の一般化や，客観性のある単元構造への追究を進めてきた。それはキーワードによるマトリックスの作成によって研究したものであった。そして内容目標や能力目標を意識し，目標のちらばりの適正化をはかることに努めてきた。

本研究では5社の教科書について，記述内容を集約し，共通的要素を検討するという手法を試みた。

先ず目標を具体化するために，教科書の内容から海外進出の部分をとり出し，それを手がかりにしてより客観的目標へアプローチしてみた。

各社とも信長・秀吉を中心とした記述と，家康を中心とした記述の二箇所で説明しているのでその概要を記してみよう。

最初信長・秀吉についての記述を要約してみよう。

(A) 信長は商人が自由に海外へ行きかうことをゆるし，キリスト教の教会や学校もたてた。秀吉も海外貿易に力を入れた。朝鮮出兵したが失敗した。

(B) 堺・博多・長崎などの大商人は，朝鮮や明をはじめ，カンボジヤ・シャムへ出かけて貿易を行う。秀吉は朱印状を与えて統制した。

(C) 秀吉は海外にも目を向け，東南アジアとの貿易を保護した。朝鮮出兵したが失敗した。

(D) 秀吉は海外貿易に力を入れ，朝鮮進出をはかったが失敗した。

(E) 秀吉は，交通を便利にし，鉱山をひらいて金貨・銀貨をつくった。海外貿易もすすめた。

以上は信長・秀吉を中心にした海外発展の記述である。

ここから考えられる要素は，

「信長・秀吉らは，大いに海外発展をねがい貿易を奨励した。」である。

つぎに，家康を中心にした海外発展の記述は下記のようである。

(A) 家康は秀吉と同じく海外へ出かける貿易船を保護した。そのため幕府が開かれてから約30年間，南方へ出かけた日本人はのべ10万人といわれ，日本人の町さえできた。

(B) 家康は，東南アジアの国々と平和にまじ

わり，貿易をすすめたので，多く日本人が海外へでかけて行くようになり，各地に日本町をつくり，貿易の仕事を行っていた。

(C) 家康は外国との貿易をすすめたので，これまでのポルトガル・スペインのほかにオランダ・イギリスとの貿易も始まった。日本の商人の中にも東南アジアの町や港へ貿易に出かける人も現われた。

(D) 家康も秀吉と同じように外国との貿易に力を入れた。このころ，ポルトガル・イスパニアのほかオランダの船も日本へ来て貿易をした。日本の貿易船も幕府から朱印状をもらって，さかんに東南アジアへ出かけた。今のフィリピンやベトナム・タイなどには，たくさんの日本人が住みつき，日本町がつくられるようになった。

(E) 家康は，秀吉と同じように外国との貿易を保護したので，朱印船が東南アジアに出かけた。フィリピンやシャムなどには日本人でつくった日本町もできた。

この記述から考えられる要素は

「日本人の海外進出が大いに進み，海外で活躍する人もあらわれ，日本町もできた。」である。

教科書の記述行数や資料数は，どの教科書も家康を中心とした記述のところで大半をしめ，しかもこの記述のある題目が「鎖国」が多く，海外発展はしたが，やがて基本政策との矛盾で鎖国につながっていくような構成で書かれている。

ここで我々は，目標設定にあたり「南蛮貿易と日本町」の位置づけをどうするか考察した。

- 内容，能力，情意などの目標から吟味する。
- 子どもの歴史学習への興味・関心の検討をする。
- 歴史の見方・考え方の育成について考察する。
- 人物の扱い方について考察する。
- 資料収集の可能性について考察する。
- ・・・・・・・・

これらの観点は，目標設定や学習をどこに位置づけるかの段階で絶えず考慮されるべきものである。考察の結果はつぎの二論で集約した。

① 海外発展政策は，やがて家康の政権確立のための基本政策との矛盾を生むものになり，その因果関係追求の検証資料としての位置づけが強くなり，目標はつぎのようになる。

「戦国の世は，信長・秀吉らによって統一され，家康による江戸開府で強固な幕藩体制をきずき，武士の世の中を確立したことを理解させる」

② ポルトガル・イスパニア商船に刺戟されて日本人の海外雄飛が大いに高められ，海外で活躍する人もあらわれたり，日本町もできたりして人々の心の中に大きな夢があった時代であるという考え方に立つと，安土桃山時代という時代区分で一つのまとめをする。

目標は「信長・秀吉らの天下統一，鉄砲やキリスト教の伝来を機に日本人の海外発展，桃山文化など当時の人々の生活や文化にも関心を深める」である。

我々がこの題材を取り上げた理由の中に「明治維新」や「鎌倉武士」の指導では，内容目標に大きなウェートがかかり，理論的な追求の多い目標や単元構成をしてきたので，この日本人の海外発展の題材を通して，情意的目標をいくらかでも位置づけるには格好のものであるというねがいがあった。

前述したように教科書の構成では，「鎖国」という項目の中での扱い方がほとんどであり，海外進出が鎖国に結びつけられる記述の仕方である。このような位置づけをすると我々のねがいである「大きな夢があった時代」というイメージは出てこない。

したがっていくつかの異論もあったが，長い歴史学習の過程の中で一律のパターンによる学習でなく，多様な展開も必要であろうという意味もこめて，②の立場を取り上げ，以後の授業設計をすすめていった。

(2) 単元構成

研究のねらいでも強調したように，我々は児童の思考過程を単元の中でどう生かし，また，それに基づいた授業はどうなければならないかを追求することが主なるねらいの一つである。そのため，単元を構成する前に，児童がどれだけの知識や考えを持っているかを調査することから作業を始めた。

（ア） 事前調査（金沢大学附属小学校6年1組）

南蛮貿易と日本町についての予備調査

（9月8日，室町時代にはいった時点で実施）

① 日本の歴史の中で，日本人がどんどん海外へ進出していった時代があったことを知っていますか。

はい20人　52.6%　いいえ18人　47.4%

② それは何時代でしたか，また，今からおよそ何年ほど前だったでしょうか。

江戸時代12人　31.6%　飛鳥時代3人　7.9%，奈良，安土桃山，明治時代各1人あて　2.6%　無解答　20人　52.6%

500年前　4人　1300年前　3人　300年前　2人　200年前　2人　後1350年，700年，400年，350年，250年，150年，100年　各1人

③ 朱印船が活躍した地域はどの方面だったでしょうか。

九州8人　オランダ5人　中国朝鮮1人　鹿児島1人　西洋シャム1人　大阪神戸1人　江戸1人　マレー1人

④ 朱印船のおもな基地は日本のどのあたりにあったでしょうか。

瀬戸内海4人　堺3人　大阪3人　九州3人　長崎2人　江戸1人　マカオ1人

⑤ どんな商品を輸出入していたでしょうか。

輸出　絹織物3　生糸2　鉛2　鉄2　茶2　刀1　瀬戸物1　仏像1　木材1

輸入　鉄砲4　お金3　茶3　タバコ2　薬，時計，ワイン，各1　キリスト教1　西洋の文化1　医学1

⑥ 日本人が海外へ進出して住みついた町をなんといいますか。

日本人町8人　21%　日本町3人　7.9%　植民地1人　2.6%

⑦ その町を知っているだけ書きなさい。

シャム1人　ナホトカ1人　タイの日本人町1人

⑧ その日本人はどんな身分の人が多かったと思いますか。また，そのわけも書きなさい。

○身分の高い武士—海外へ行くには費用も多くいるし，普通の人では行けない。4人

○キリスト教徒—日本でキリスト教が禁止されたから。3人

○医者・学者・科学者—海外の文化を学び日本の文化を向上させるため。3人

○商人—品物を売買するため。3人

○武士—日本では出世できないから。2人

○農民—税がおさめられず日本から脱出するため。2人

○少しえらい人—外国へ行く人がだらしない人だったら外人に日本を悪く見られるから。1人

⑨ 海外へ行った日本人はどんな気持ちで行ったと思いますか。

○新しい文化を日本に取り入れたい。3人

○海外の国はどんなになっているか知りたい。3人

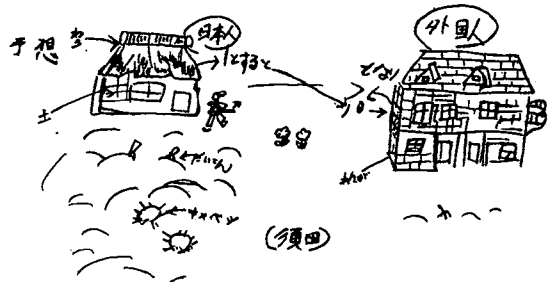
○日本での苦しい生活からぬけ出し海外でいい生活がしたい。2人

○新天地に行って名をあげたい。2人

○その他，不安・心配・好奇心・，あこがれ，期待，あらしに会わねばよいが　といったものが散見する。

⑩ 日本人は海外でどんな家に住んでいたか想像して絵に書きなさい。

（11人の児童が絵を書いてくれたが，次はその中の1枚である）



事前調査の結果から，児童は半数以上（52.6%）が知っていると答えていながら，内容の詳細については殆ど理解していないことがわかる。(2)で飛鳥時代と答えたのは，前の学習で聖徳太子の年代と事柄を連想したのであろうし，最後の絵からは，日本人の生活水準は外国にくらべて極端に低いものであるという先入感からぬけ出せないことをよく示している。

これらのデータをもとに，われわれは単元の構成を試みた。

（イ）　単元構成

単元名　天下が統一されるまで　　（9時限）

単元の内わけ

天下の統一……5時限

南蛮貿易と日本町，文化……4時限

単元の目標

戦国の世は，信長・秀吉・家康の三人によって統一されたが，この頃ヨーロッパ文化の流入が大きな影響を与えたことにより，日本人の海外進出の気運も高まり，それを象徴するような豪華で雄大な文化が栄えたことを理解させる。

各時のねらい

① 戦国の大名が領内の統制や領地の開発によって実力をたくわえながら，互いに争っていた戦国の世を想起させ，年表を参考にして，天下が統一されるまでの時代を概観し，学習問題をつくらせる。

② 織田信長の天下統一事業の経過を知り，信長が天下統一のさきがけとなることができた理由を信長の人物像を通して考えさせる。

③ 豊臣秀吉の大阪城建築や検地・刀狩による天下統一の様子を知り，武士が治める世の中のしくみの基礎をつくることができた理由を秀吉の人物像を通して考えさせる。

④ 徳川家康の苦難にみちた生い立ちと，秀吉の死後，政治の実権をにぎり，江戸幕府を開くに至った経過を知り，家康が天下を統一することができた理由を家康の人物像を通して考えさせる。

⑤ 戦国の世が平定され，天下が統一されていく様子を信長・秀吉・家康の業績や人物像をもとにイメージ化させる。

⑥ ヨーロッパ文化，特に鉄砲，キリスト教の伝来を知り，それが天下統一の過程や日本人の生活様式に大きな影響を与え，さらに，日本人の目を外国に向けさせたことに気づかせる。

⑦ 信長・秀吉・家康はともに，海外貿易（南蛮貿易）を奨励したことを知り，その理由を考えると共に，外国（ヨーロッパ）の東洋進出の動向についても知らせる。

⑧ 海外貿易奨励の結果，海外に出かけていく日本人が増え，やがて東南アジアに進出した日本人が日本町をつくり，山田長政のような人物もでてきたことを知り，当時の日本人の心意気について考えさせる。

⑨ 天下が統一される頃の人々の生活を外国とのつながりからイメージ化させ，それが雄大豪華な桃山文化にあらわれていることを理解させる。

単元の流れ

第一次　天下の統一（5時限分）

戦国の世は信長・秀吉によって統一され，家康による江戸開府で強固な幕藩体制がしかれ，武士の世の中が確立されたことを理解させる。

配時	学習の流れ
1	戦国の大名が領内の統制や領地の開発によって実力をたくわえ，互いに争う，群雄割拠の戦国時代が続いていた。 ↓ 〈戦国の世はだれがどのようにして統一していったか〉 （年表の概観）
	信長，秀吉，家康の3人で統一の仕事が行われ，家康の江戸幕府の開府で統一が完成した。

2
〈信長はどのように統一したか。〉
信長の生いたち，事業，新しい考え方
信長は多くの合戦に勝つと同時に，新しい考え方で商業等を行い，天下統一のさきがけとなることができた。

3
〈秀吉はどのように統一したか。〉
秀吉の生いたち，事業，検地，刀狩り
秀吉は検地・刀狩り，大阪城の建設などを行い武士が治める世の中の基礎をつくった。

4
〈家康はどのようにして統一を完成したか。〉
家康の生いたち，関が原の戦い
苦難にみちた生いたちの家康が秀吉の死後，関ヶ原の戦いを経て，江戸幕府を開くにいたった。

5
〈信長，秀吉，家康によって天下統一がなされていくようすをまとめてみよう。〉
信長，秀吉，家康の比較
同時代に生きた，信長，秀吉，家康の3人は，各々のやり方で統一の仕事を行い，武士の世の中ができあがった。

第2次　南蛮貿易と日本町・文化（4時間分）

信長・秀吉・家康の三人は海外貿易を奨励したので日本人の海外進出の気運も高まり，そのため，当時の世の中の様子に活気がみなぎっていたことを理解させる。

〈天下の統一がなされていった頃の世の中のようすはどのようだったか。〉
（年表の概観）

1
鉄砲の伝来，キリスト教の伝来，少年使節，秀吉が朝鮮に兵をだす，南方の国々との貿易
外国とのつながりが深く，合戦における戦法や築城法に変化を与え，人々の間にキリスト教が布教する等，当時の世の中に大きな影響をあたえていた。
外国とのつながりを窓口として，世の中のようすをみていこう。

2
〈当時の日本人の海外発展のようすはどのようだったか。〉
信長，秀吉，家康の貿易のはつれい，海外発展，朱印船，朱印状，港（堺，博多，長崎）
信長も秀吉も家康も財力を高めるために海外貿易を奨励したので，多くの外国船が日本へやってきたし，また，多くの日本人が外国へでかけていった。

3
〈海外発展をさかんに行った当時の日本人のようすや気持ちは，どのようだったか。〉
海外に発展した国々（朝鮮，中国，インドシナ，シャム，ルソン）シャムにおける日本町，山田長政の活躍
荒波をのりこえて，海外へ発展していった日本人は，国内では，じゅうぶん活躍する場のない人たちも多かったが，山田長政のように外国で大活躍する人物もみられ，進取の気性に富んでいたといえる。

4
〈天下の統一がなされていった頃の世の中のようすについてまとめよう〉
国内のようす，外国とのつながり，桃山文化
天下の統一がなされていった頃の世の中には活気がみなぎっており，それが雄大豪華な桃山文化にあらわれている。

以上のような学習の流れを構成した。なお本単元では，南蛮貿易と日本町について深く堀り下げるのがねらいであったために，次のような，

児童の意識の流れと学習内容，さらに資料との関係について一応の学習展開案を試みたわけである。

第二次「南蛮貿易と日本町」……4時限

時	学習内容	児童の意識の流れ	
	前時までの意識	天下が信長・秀吉・家康の3人によって統一されていくようすを学習することにより，この頃の世の中のようすが，かなりはっきりしてきた。 外国とのつながりを学習すれば，もっとこの頃の世の中のようすがはっきりしてくるだろう。	
1	1 学習問題を把握する。 2 年表を概観する。 3 この時代の外国とのつながりの特色を考える。	《信長・秀吉・家康のいた時代は，外国とどのようなつながりがあったのか。》 信長：・鉄砲伝来 キリスト教が伝わる。 秀吉：・朱印船貿易 ・鎖国出兵 ・フィリピンへの国書 家康：・オランダとの貿易 ・朱印船貿易 ・イギリスとの貿易 ヨーロッパの国々とのつながりができた。外国からいろいろなものが伝わってきた。日本人が遠い南方の国々へ出かけるようになった。外国に日本人の町ができた。	・年表「天下が統一されていった世の中」
2	1 学習問題の確認をする。 2 資料で，この時代の外国とのつながりのようすを調べる。 3 この時代の外国とのつながりのようすについて，自分の考えをもつ。	《日本と外国のつながりが今までの時代とは，ずいぶんちがってきた。もっと，くわしく調べてみよう。》 日本へやってきた南蛮人：・ポルトガル人の来航 ・キリスト教や鉄砲の伝来 ・オランダ，イギリスの退出 ・日本人の反応 南方へ出かけて行った日本人：・朱印船と朱印状 ・朱印船の行きさき ・しいれた品物 ・日本町のようす ヨーロッパ人は，キリスト教を広め貿易をさかんにし，さらに，植民地をもとめてアジアに進出してきたのだ。しかし，日本人も貿易をするためにたくさんの船で多くの人々が南方へ出かけて行き日本町でくらしている。	・資料1「朱印船の行き先」 ・資料2「おもな貿易品」 ・資料3「朱印船での航海」 ・資料4「日本町がさかえる。」
3	1 学習問題の確認をする。 2 朱印船の旅や日本町について，イメージ化する。 3 当時の人々の気持ちについて考える。	《南方へ出かけて行った人々や日本町に住んでいた人々のようすは，どうだったか。》 ・どのような船で行ったのだろう。 ・どのような航海だったと思うか。 ・日本町はどんなようすだったのか。 ・日本町に住む人々はどんな生活をしていたのか。 この頃の人々はどんな気持で外国へ出かけ，そこに住んだのだろう。 貿易をして，お金をたくさんもうけたいと考えた。 日本にいても出世できないので，外国へ出かけてやろうと考えた。 この頃，外国へ出かけて行った人たちは，たくましい気持ちと大きな希望をもっていた。	・資料5「関内の屋敷 東前係左図門」 ・資料6「山田長政の話題」
	1 天下が統一されていった世の中についてまとめる。 2 まとめたようすを発表する。	天下が統一されていった時代の世の中のようすを天下を統一していった人物や南方へ出かけていった人々を想起してまとめるのだ。	・OHPシート

(3) 一次授業案とマイクロテーチング

我々は，単元設計に基づいて授業細案を立案する前に略案をたてそれを少数の抽出児を対象にして授業にかけてみることを試みた。このような手法（マイクロテーチングとよぶことにする）を取り入れたのは，今までの授業研究では，あまりにも教師サイドから分析した授業案であったことである。さらにそれを児童側におろした場合に，〝児童はどのように反応するか〟を知るために他学級を使用して検討することが多かったために，教材の進度・時間的調整，学級集団の質等に左右されて効率ある検討ができなかった事が度々みられたこともある。

そこで我々は，今回の授業研究を次のような手順と観点で実施した。

① 授業略案をたて　学級内から次のようなグループで児童を抽出する
- Aグループ　上位1名。中位2名
- Bグループ　上，中，下位1名づつ
- Cグループ　中位2名。下位1名

② 業後それぞれのグループをマイクロにかける。

③ マイクロにかける時のチェックポイント
- ねらいに到達するための教材の質
- 授業案の組み方と児童の思考とのずれ
- 問題意識の高まりと持続性
- 教師の発問・資料の適切性

・配当時間

ア　授業案

イ　マイクロテーチングの実践記録

◇調査対象校　金沢市立泉野小学校

6年2組

◇実施日　　昭和51年9月2日　業後

◇グループ名　Cグループ　(1)…下位　(2)…中位　(3)…中位　女子

授　業　略　案

1　題　　目　　日本人の海外発展（第二次中23時）

2　本時のねらい

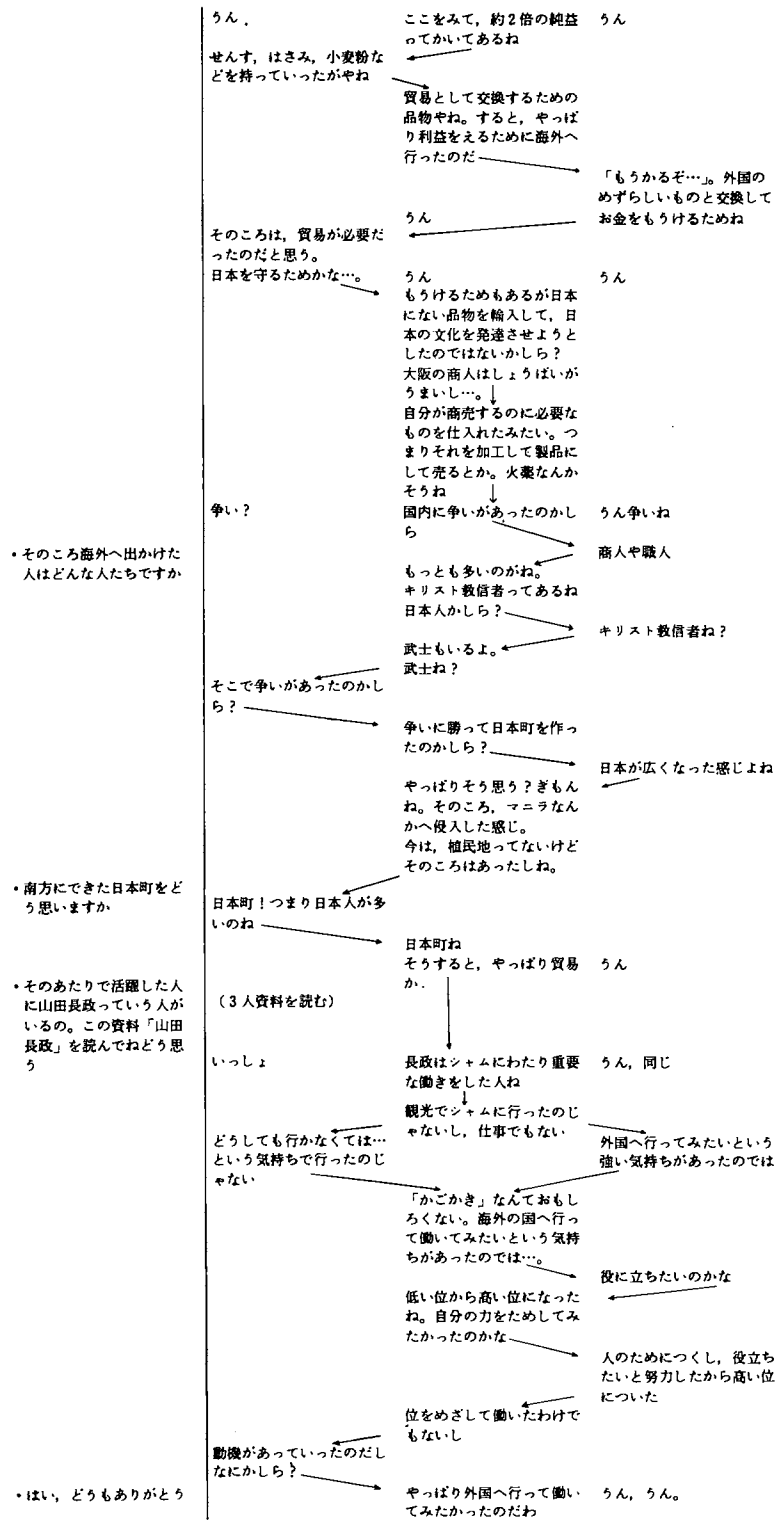
16世紀後半から17世紀にかけて外国へ出かけて行く日本人がふえた。やがて東南アジアに進出した日本人がそこに日本町をつくり，山田長政のように大活躍する人物もあらわれたことをわからせるとともに，そのころの日本人の心意気について考えさせる。

3　指導過程

学習事項と活動	時間	児童の主な思考の流れ	資料
1　朱印船の渡航地 ・朱印船の行き先を地図で調べる ・そのころの航海のようすを資料から読みとり苦労を話し合う	45分	このころの日本人は海外のどのあたりへ出かけたのかな 朱印船の渡航地 東南アジアや南方の国々 季節風を利用 20日～40日もかかる 日本のまわりの国が多いがそのころは遠い国なのでは とってもきけんな航海だ しかし，たくさんの人たちが海外へ出かけている	地図「朱印船の渡航地」 絵「朱印船」 「貿易品」の資料 物語文「末吉船」
2　海外発展の理由 ・海外へ出かけたわけを予想する	35分	大へん，きけんな航海だったのに，多くの人たちがどうして海外へ出かけたのだろうか 貿易をして金をもうけをするためかな 外国へ行ってみたい 自分の力をためしてみたい えらい人になりたい 自由なくらしをしたい 日本がいやになったのかな	絵図「日本町のようす」
・豪商の海外発展について検証する		末吉船は幕府から朱印状をもらい，約2倍の純益があった 日本人の手で日本町を造って生活している 武士や商人・職人が活躍している	物語文「日本町」 物語文「山田長政」
・山田長政を代表人物として検証する		船主（大名や豪商）はやっぱりもうけが多い 山田長政のように，国王に信用されたえらい人もあらわれた	
3　まとめ ・そのころの日本人の心意気について自分なりの考えを話し合う	10分	きけんな航海をのりこえて，外国へ発展した人たちは，大きな希望に燃えて，海外で活躍したのだな	

日本人の海外発展

教師の働きかけ（発問・助言・資料）	児童の思考の流れ (1)	(3)	(2)
・資料「朱印船の渡航地」の地図を提示 ・日本がどこにあるかわかりますか ・そのころの日本人はどのあたりへ出かけていますか	はい	はい，ここ ↓ ツーラン，タイ，シャム，フィリピンなど日本町のあったところ →	はい タイ，フィリピンとか日本町や日本人が住んでいたところ
	私も2に同じく日本町や日本人が住んでいたところ	うん，うん （指できょりをはかり始める）	
・そのあたりは日本からみてどのあたりですか	日本から近いところやね →	近いけど船だったら何日もかかったのじゃない	私も1に同じく近いところ
・資料「末吉船の航海」の物語文を読ませる ・そのころの航海をどう思う？	台風なんか来ると行けないね	1年に1回しか行けなかったのね	
	あっ，そうか。帰えれんがやね きけんやね。 結婚していたらやめてくれとたのむわ →	うん，そうそう。 中国（唐）へ行ったときもきけんやった。唐の文化をとり入れるために自分を無にしてでかけたね	風のむきを利用していたから往きは北風でしょう。帰りは南風だから台風がくるとかえれないのでは……。 うん，うん 私も3と同じようにきけんやったと思う。日本を発達させるために行ったほうがよいと思うけど…とちゅうであらしにあうときけんや
	うん，うん 私も3に同じく命がけという感じ	うん，うん 命がけやね	
・資料「朱印船」の絵をみせて，この船をみてどう思う	うん うん ちょっとこの船をみて 人が何人も乗ってるよ →	「ほ」があるね ヨットみたいになってるから風をたよりにしていたしようこね ↓ 機械も発達していなかったし天候のよい日でも航海中にあらしにあったと思う。今は技術がいいけどそのころは船で旅をするのはやっぱりあぶないね うん	うん，うん うん うん さっきの資料では300人くらい乗ってるって書いてあるね
	たくさんの人やね →	うん，うん その頃は技術が高度だったのじゃない。かんりん丸みたいに。	とちゅうで風のむきが変わるし，全く風をたよりに…というのはこわいね
・そのようにきけんな航海だったのにどうして海外へ出かけたのかしら	（考えこむ）	（資料の「末吉丸」を再び読み始める）	（考えこむ）


うん。
ここをみて，約2倍の純益ってかいてあるね
うん
せんす，はさみ，小麦粉などを持っていったがやね
貿易として交換するための品物やね。すると，やっぱり利益をえるために海外へ行ったのだ
「もうかるぞ…」。外国のめずらしいものと交換してお金をもうけるためね
うん
そのころは，貿易が必要だったのだと思う。
日本を守るためかな…。
うん
うん
もうけるためもあるが日本にない品物を輸入して，日本の文化を発達させようとしたのではないかしら？
大阪の商人はしょうばいがうまいし…。
自分が商売するのに必要なものを仕入れたみたい。つまりそれを加工して製品にして売るとか。火薬なんかそうね
争い？
国内に争いがあったのかしら
うん争いね
商人や職人
もっとも多いのがね。
キリスト教信者ってあるね
日本人かしら？
キリスト教信者ね？
武士もいるよ。
武士ね？
そこで争いがあったのかしら？
争いに勝って日本町を作ったのかしら？
日本が広くなった感じよね
やっぱりそう思う？ぎもんね。そのころ，マニラなんかへ侵入した感じ。
今は，植民地ってないけどそのころはあったしね。
日本町！つまり日本人が多いのね
日本町ね
そうすると，やっぱり貿易か。
うん
（3人資料を読む）
いっしょ
長政はシャムにわたり重要な働きをした人ね
うん，同じ
観光でシャムに行ったのじゃないし，仕事でもない
外国へ行ってみたいという強い気持ちがあったのでは
どうしても行かなくては…という気持ちで行ったのじゃない
「かごかき」なんておもしろくない。海外の国へ行って働いてみたいという気持ちがあったのでは…。
役に立ちたいのかな
低い位から高い位になったね。自分の力をためしてみたかったのかな
人のためにつくし，役立ちたいと努力したから高い位についた
位をめざして働いたわけでもないし
動機があっていったのだしなにかしら？
やっぱり外国へ行って働いてみたかったのだわ
うん，うん。
・そのころ海外へ出かけた人はどんな人たちですか
・南方にできた日本町をどう思いますか
・そのあたりで活躍した人に山田長政っていう人がいるの。この資料「山田長政」を読んでねどう思う
・はい，どうもありがとう

ウ　考　　察

マイクロにかけた時点は，児童は鎌倉幕府の後半を学習中であった。つまり時代を越えて実施したわけであるが，記録に見られるように児童の興味は強く意欲的な学習態度であった。我々が一番心配していたこのころの人々のロマンを6年生が追求できるかどうか……。の点では，中，下位群の児童が，金もうけもあって海外へ進出したが，まだほかに理由がありそうだ…といっている点に目をつけたい。そのころ海外へ進出した人たちは，商人や職人が多くさらに武士であった長政のかごかきの地位について考えている点に驚ろかされた。特に3の〝かごかきなんておもしろくない〟という考えを追求して行けば，信長，秀吉，家康のころの社会情勢から推測してその頃の人々のロマンや自由を求めた姿が浮きぼりにされるのではないだろうか。そこで我々は児童に困難を乗り越えて海外へ進出した理由を考えさせ，それを豪商・末吉孫左衛と武士・山田長政で検証する学習の流れをたどればよいだろうという結論に達した。

ただマイクロにかけたときは約50分の時間を要しているので実際の授業になればその倍はかかるだろうから，海外進出の理由のところにウェートをかけた流し方をして行きたいと思う。

4　授業の実施（二次授業案による）

〈事例①〉

授業の記録（金沢市立小坂小学校6年1組）

板書　これは学習事項2の部分についての記録で，全体の学習の展開はp7を参考にしてほしい。

> 貿易のために外国へ出かけたり，日本町をつくっている人々は，どんな人で，どんな気持ちや考え方を持っていたか。

……（前　略）……

……

C 15　どんな気持ちで外国へ出かけたかというと，南方の方へ行って金もうけをしようとか出世しようとか思って南方へ出かけていったと思います。それは南方では日本製の品物が売れるので，日本の品物を高く売りつけて金もうけをしようと思っていることと，日本では出世しようと思ってもできない人が外国へ行ったら出世できると思って行ったと思います。

C 16　外国へ行くと，出世できるといいましたが，どうして，日本人が外国に行っても出世できるのですか。そういう資料があるのですか。

C 17　Sさんは，外国へ行ったら出世できるのかなァーと思って朱印船に乗りこんで外国へ行ったというのですが……。そんなできるかなァーぐらいやったら，広い海へ出て木の葉みたいな船で，いつ台風が来るかわからないのに，この広い海を「かなァー」くらいの気持ちで行けない

1. 題　目　南蛮貿易と日本町（第二次中3時）
2. 本時のねらい
　16世紀後半から17世紀にかけて，外国へ出かけて行く日本人がふえ，やがて東南アジアに進出した日本人がそこに日本町をつくり，山田長政のように大活躍する人物もでてきたことをわからせるとともに，そのころの日本人の心意気について考えさせる。
3. 指導過程

学習事項と活動	時間	児童のおもな思考の流れ	資　料
1　本時の学習問題の確認	1′	貿易のために外国へ出かけたり，日本町をつくった人々は，どんな人たちで，どんな考え方や気持ちをもっていたのだろう。	
2　海外発展をした人々の気持ちや考え方の予想 ・前時の学習をもとに話し合う。 ・わからない点についても出し合う。	9′	たくましい人，強い人 ・外国で出世してやろう。 ・貿易をしてお金をもうけたい。 ・外国へ行ってみたい。 弱々しい人 ・日本にいてもだめだ。 ・外国なら出世できる。 その頃の人のことがわかる資料があると，もっとわかる。 資料5，6の末吉孫左衛門と山田長政は，どんな考え方や気持ちをもっていたのだろう。	
3　末吉孫左衛門・山田長政の海外発展の気持ちや考え方 ・2人の人物の気持ちや考え方について調べる。 ・2人の人物の考え方の違いや同じ点について話し合う。	30′	末吉孫左衛門 ・南方へ行って貿易をしよう。 ・貿易をして，お金をたくさん，もうけよう。 ・南方にある，いろいろな品物を日本へもってこよう。 山田長政 ・日本にいても出世できない。 ・外国へ行ってがんばろう。 ・外国には，すばらしい生活がある。 ・日本人の値ぎをみせてやろう。 お金をもうけたいという気持ちの強い人。そのためには命がけで，でかけて行く人だ。 日本では，だめだから外国へ行って，自分の力をためしたいという強い希望をもっていた人だ。	資料5 「貿内の番頭 末吉孫左衛門」 資料6 「山田長政の活躍」
4　その頃の人々の心意気 ・2人の人物の学習をもとに，その頃の人々の気持ちや考え方について話し合う。	4′	この頃の人々は，日本にいてもだめなので命がけで，外国へ出かけて，自分の夢をかなえたい，という大きな希望をもっていたのだな。	
5　次時の学習の確認	1′	次時は，天下が統一されていった世の中について，まとめてみよう。	

と思うのです。

C 18　ぼくは，外国でお金をどっともうけて日本にえらそうな顔をして帰ってやろうと思っていたのだと思います。

C 19　貿易船に乗る人はキモのでかい気の強い人ばっかりで，気の弱い人は木の葉のような船で太平洋をわたって行くのだから乗らなかったと思うし，キモのでかい人は金のためならイチかバチかやってみるという気持ちになったと思います。

C 20　ぼくもやっぱり，船に乗る人は気の強い人で，目的はお金もうけもあるし，自分たちを知ってもらいたいとか，いろいろなことがあってだと思います。

T 14　あとは，付け加えなど自由に言ってください。

（数人）　つけたして。つけたして。

C 21　ぼくも，貿易船に乗った人は，たいていの人が気が強くて。それは，なぜかというと，この船はでっかい太平洋からみると，たった一つのチョボにしか見えなくて，ちょっと荒波でも沈没しそうな船で，……根性の強い人しか乗れないと思います。そして，日本町で働いている人の気持ちは，今まで日本であまりにお金が少なくて，貿易船に乗ってきた時も，ふろしきにお金を少しと食器とか着るものだけでびんぼうな人が多くて，商人もいたけれど，びんぼうな人たちが日本と外国のためになんとかしてお金もうけをしようと，いっしょうけんめい働いていたと思います。

C 22　そんな貧乏な人たちなら行けないんじゃないですか？船に乗るお金なんかないし……。

T 16　ということは，君は金持ちがいったんだってことだね。

（数人）　金持ちーィー，金持ちがァー？

C 23　金持ちとかいいましたが，浪人なんかも，外国へ行っていっしょうけんめい手がらをたててやるんだと思って，質屋とかへ行って，自分の服を売ってかせいだり，田畑の手伝いをしたり，商人の家の浪人になって，その商人を守ったりしてやっとお金がたまったという時に。……先生，資料出していいですか。

（ここで自作ＯＨＰシートを出す）

こういうふうな浪人さんが，オレはなァー，あっちの護衛兵になって，敵の大将の首をとって，このように金銀財宝をいっぱいもらってやるんだと考えて，資料4の6行目に書いてあるようなことです。

……（略）……

このシートに書いてある人はみんな夢をもってあっちで実現させてやろうと思っていて，気の弱い人なら，お金をもっているのなら日本でかせいだ方が自分の身を考えれば安心でしょう。そういうことから考えても，外国へ行った人は，そこらのヤツよりえらくなって，一世一代の大仕事をしてやるんだという人が，こういう夢の船に乗って出かけて行くんだと思います。

C 24　ぼくは，ちがってM君は気の強い人が行くといいましたが，金のためなら気の弱い人でも，船にちぢこまって，こわそうにしているけれど，日本町についたら金，金って言って，やっぱり気の弱い人でも行って，もうけようという気持ちがあったと思います。

C 25　お金のために行くといいましたが，お金より自分の命のほうが大切だと思って行かないんじゃないですか？

C 26　あの船はちっちゃいというけれど，昔ではあの船はでっかいといわれているので，やっぱり気の弱い人も，大きいのを信じて，その船に乗って外国へ行ったのだと思います。

C 27　K君たちは，気の弱い人でも，金のた

めなら行くというけれど，朱印船は昔やったらでっかいけど，太平洋のまん中やったら針の穴みたいで，台風でも来たらひっくりかえりそうなもんで，気の弱い人やったら金もうけより，生きとるほうがいいわいとか考えるので，朱印船に乗りこんで金をもうけてやるという人たちは気が強くて，……気の強い，夢をもった人たちだと思います。

C 28　ぼくもＩ君の考えによく似ていて，商人たちは，お金をもうけるには外国と貿易すればいいと考えて，日本と外国と貿易をしてガッポリかせいだと思います。だから夢をもった人たちが外国と貿易をしたと思います。

C 29　私は，外国へ行った人は何か仕事をしようと思っていたけれども，日本はこの時代は身分がすごく区別されていて，日本ではもう自分はきまりきった生活しかできなくて，外国の日本町はいろいろなところから人が集まって町を作っているので，身分も関係なく自分の好きなようにというか，なんか自由というか，自分の人生をもう一回やりなおしてみたいというか，そういう気持ちがあって，外国へ行ったんだと思います。

C 30　ぼくは外国とかに行ったのは，身分のとても低い農民たちで，なんか日本はきまりきったつらい生活で，外国へ行って自由になりたいなァーと思って，そしてイチかバチかいってみて，日本町についたら，ここは自由だいいなァーと思ってなんかいろいろむこうで働いていたのだと思います。

C 31　検地があるので農民は逃げられません。だからそういうことから考えて，貿易の一番しやすい，徳川家康や豊臣秀吉におさえられていない商人がやるんです。商人とか浪人。考えられませんか。

……

……（後　略）……

〈事例２〉（金沢市立味噌蔵町小学校６年３組）

①マイクロテーチング（サンプル）の利用

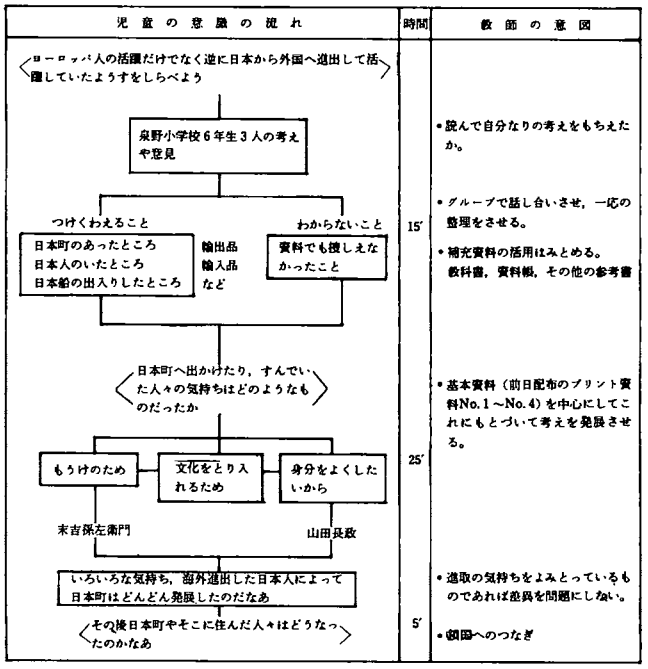
今までの授業研究では，先駆者による事例を分析研究して教師の手で修正を加え，指導案を立てる場合が多かった。本事例はこの修正を授業を受ける児童自身の手にゆだねることによって，より思考活動を活発にし，学習の焦点化を計ろうとしたものである。

さらに言えば先駆者の実践をもっと生のまま活用できれば，授業前に要する多大な労力をもっと削減し，授業そのものにより力を注げることになるのではないかというのが素直な理由である。

②　授業の展開

題　目　南蛮貿易と日本町（第２次中３時）

本時のねらい　16世紀後半から17世紀にかけて外国へ出かけて行く日本人がふえ，やがて，東南アジアに進出した日本人がそこに日本町をつくり，山田長政のように大活躍する人物もでてきたことをわからせるとともに，そのころの日本人の心意気について考えさせる。



③実施した手順

前日にマイクロテーチングを記録したものを配布し，見方を説明した。

「先生の質問」は教師の発問であること。「3人の考えや意見」はそれに対する児童の反応であること。資料とは「資料名」の欄中に掲げられたものであること。また「考えや意見」が番号で28から36まで続いていれば一人の意見に付加したり，反対したりという討議がおこなわれていることを意味していること。

以上の説明をした後で，掲載されている資料を2枚のプリントにして配布した。

学習の目あてはマイクロテーチングをよく読んで「考えや意見」をもとに，自分の考えを修正したり，発展させたりして日本町の人々の考えや当時活躍していた人々について学び，日本人の心意気を感じとることができるようにとした。

④　授業の流れ

指導案および指導目標は前掲の通りである。ただ家庭学習してきた者が少数であったので，よりグループ活動に時間をかけて話し合わせた。

わからない事，付加する事に二大別して話し合わせ，その結果を発表させ話し合いを深めさせることにした。この結果でてきたことは次の通りである。

わからない事　①どのようにして風力か人力しかない船の水・食糧を補給したか。②日本町が最初にできる頃のようす。③ことばのことで何語をどれぐらいの人が使えたのか。④「先生の質問」6と7はどうして切り離して質問したのか。⑤山田長政の例とは反対の例があったはずだがどんな例があるのか。

付加されたことは，日本町の所在地名と数，季節風，輸出入商品名などであった。

授業の流れで最も活発な学習活動がおこなわれたのはマイクロテーチングで児童の意見や考えNo.24の後段以降からである。

どんな人たちがどんな目的で日本町へ行ったりしたのか6と7を混合させた内容にした方が考えやすいという意見で発表が活発になったようである。

資料3の日本町のようすは思考を促すのに適したのか次のような意見がみられた。

武士――幕府に反抗した人たち
　　＼身分が日本であがらない人たち
商人――もうけるため，身分を高めるため
職人――技術や文化を日本に伝えるため
農民――日本がいやで

これらの意見で武士に関しては34は日本国内ばかりでなくシャム国内などの争いも考えて言っているのではないかという疑問の提示があり，資料はないがシャムの国などが乱れていたので日本の武士のような強い兵士が必要だったのではないかとの意見ものべられた。しかし多くの児童は反対意見や資料の不明確さを指摘してこの考えを伸展させえなかった。また農民や商人の意見については日本の法律が適用されていたことを理由にありえないとする意見もあった。これに対して山田長政が一介の籠かきであったのが出世したことをたてに商人の身分向上や農民の活躍をありうると反論したが，結局教師側の思惑をこえた思考活動であったため補助的な資料を提示できないままに打ち切りとした。

以上のように一応の「授業の流れ」が児童に理解できているがため，流れそのものが非常に流動的で全体としては試行錯誤的であったように思える。

5　授業の評価

(1)　一時限の学習の評価（その1）

本時のねらいへの到達度

38名中26名の児童が授業設計者の意図にほぼ到達していたと考えられる。本時のねらいは既に示めしておいたように，児童たちを心情的に深めることにより，社会背景をつかませようと設計したものである。それは単なる事実認識

児童の資料活用能力と本時の発言回数および到達度

（小坂小学校６年１組）

児童No	資料活用能力	本時の発言回数	本時の到達度	児童No	資料活用能力	本時の発言回数	本時の到達度
1	A	2回	◎	20	A	2回	◎
2	C	3	◎	21	B	1	◎
3	B	0	◎	22	B	1	◎
4	B	1	◎	23	B	1	◎
5	B	0	○	24	B	1	◎
6	A	5	◎	25	B	1	◎
7	A	1	○	26	C	0	○
8	A	3	◎	27	A	1	◎
9	B	1	◎	28	C	1	○
10	A	1	◎	29	B	1	○
11	A	2	◎	30	C	0	○
12	B	1	◎	31	B	0	◎
13	C	1	○	32	B	1	◎
14	C	1	○	33	C	1	○
15	C	0	×	34	B	0	◎
16	B	0	◎	35	B	0	◎
17	B	2	○	36	A	5	◎
18	A	2	◎	37	A	3	○
19	A	1	◎	38	B	1	◎

（注）資料活用能力

A　資料を正確にかつ論理的によみとる力が優れている。

B　〃　ふつうである。

C　〃　劣っている。

本時の到達度

◎当時の人々の気持ちや考え方を想像することにより，当時の人々の夢，ロマンの心意気にせまっていると考えられる。

○当時の人々の気持ちや考え方は想像しているが，金もうけのため，日本がいやになったのでといった範囲にとどまっている。

×当時の人々の心情について想像できない。

や関係把握をねらった学習とは違っている。しかしながら児童の資料活用能力や論理的思考力を無視しては，心情的に深まることは考えられないことから，それらをふまえた上で学習が成立していることは，いうまでもないことである。上記の表をみても資料活用能力の優れている児童は心情的に深まり，ねらいに到達していると考えられる。と同時に，資料活用能力は劣っていても心情的に大へんな深まりを示めした児童もみられたことである。また能力的に優れていても心情的には深まりがなかった児童や発言が全くなかったのに心情的にはかなりの深まりをみせた児童もみられるのである。全体的にみても，能力差ほど心情面には差異がみられないのである。能力と心情的な深まりは比例の関係にあるとは必ずしもいえないのではなかろうか。以下，具体例をあげながら，これらの問題点について考えてみたい。

資料活用能力と本時の到達度との関係

本時の学習においては，資料にもとづきながら，当時の人々の心情にせまらせるという学習形態をとっているので，本時のねらいに到達するために資料活用能力は重要なはたらきをすると考えられる。しかし，No. 7やNo. 37の児童にみられるように資料をよみとる力は優れていたが心情のとらえ方がねらいからずれてきていたという例がみられたのである。とくにNo. 37の児童は資料の要点をよみとる力は優れていたが，資料の人物（山田長政）の性格の判断にこだわりすぎて，当時の多くの人々にみられた心意気を把握できなかったという例もみられた。逆にNo. 2の児童のように文章をよみとる力は非常に劣っているにもかかわらず，絵を手がかりにして，積極的に話し合いに参加し，友だちの意見や学級の授業の雰囲気から当時の人々の心情に対するイメージを高めていった例もあった。

（No. 37の児童の例）

資料活用能力　A

発言回数　3回

到達内容

人々の気持ちは「こんな日本からにげたい。」とか「金がほしい。」といった人たちで，こうまんちきな人たちやがめつい人だと思う。

（No. 2の児童の例）

資料活用能力　C

発言回数　3回

到達内容

気が強いとか弱いということではなく，金がほしい，かごかきでおわりたくないといった気持ちで，みんな自分のために何かをしてやろうと思っていた。

本時の発言回数と到達度との関係

発言回数が0回の児童が9人みられたが，そのうち5人の児童がねらいに到達し，心情的にも深まり，この時代の人々のようすをよくつかんでいた。発言がなくても，学級の雰囲気に溶けこむことによりイメージが高まったと考えられる。心情的な深まりをねらう学習では，このような傾向がいっそうでてくるのではなかろうかと考えられる。

(No. 31の児童)

資料活用能力　B

発言回数　0回

到達内容

お金をもうけたい，日本でできないことをやってやろう，向こうで早く出世して楽な生活がしたいと考えて，南方へ出かけていった。

(No. 34の児童)

資料活用能力　B

発言回数　0回

到達内容

日本のきまりの型を破って自由になり自分の夢を実現したいと考えていた。

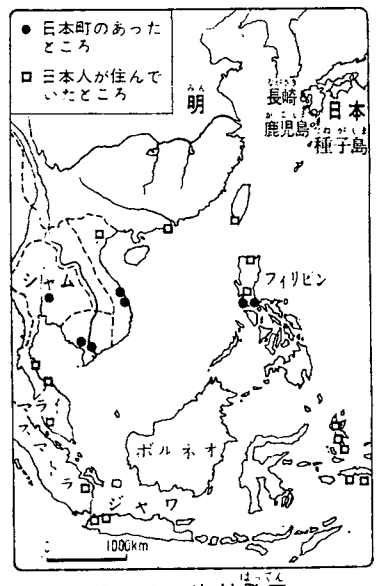
(2) 一時限の学習の評価（その2）

テンキーを中心とした授業の記録

（TK1）

日本人は海外のどのあたりへ出かけたのだろうか。前時からの引きつぎでこの学習問題から授業が開始された。資料は教科書（来年度から使用のもの）から引用したものである。児童からは口々に，東南アジアとか，中国とか発言があり，整理してテンキーを押した結果が次のようになった。

（資2）　（中教出版より）



日本人の海外発展

㊟ＴＫはテンキーの略号であり，Ｆ３はフォーマット３という意味であり，自己流の表記である。

```
  *     *    010   013     *    015
045   015    024   015   010      *
015   010    012   010   012    015
020   014    015   015   010    014
012   010    020   012   015    012
015   012    010   010   045    005
010     *    010     *   014    001
                                (0015)
```

座席の順に印字したものであり，1は東南アジア，2はヨーロッパ，3はアメリカ，4は中国，5は朝鮮となっている。

指導過程の印字記号と比較すればわかるように，1番の東南アジア，南方を最初にあげたものが36名中29名で80.6%，ついでヨーロッパの3人，4番中国の2人，はっきりしないもの2人となっている。

さらに2番目に0を印字した児童すなわち東南アジアのみが12名であることをみるとかなり正確に資料を読みとったことになる。しかし地図には表われていない，朝鮮やヨーロッパが

指導過程と評価の位置づけ　（金沢大学付属小学校６年１組）

学習事項と活動	時間	児童の主な思考の流れ	資料とテンキー（TK）
1　朱印船の渡航地 ・貿易船の行き先を調べる ・その頃の航海の様子を調べて話し合う	10′	〈日本人は海外のどのあたりへ出かけたのだろうか〉 朱印船の渡航地 東南アジア・南方の国々 日本のまわりの国が多い。その他は遠い国 ・季節風を利用する ・20日間かかる ・ある時は40日も とてもきけんな航海だ たくさんの人が海外へ出かけている	資料2「朱印船の渡航先の地図」 TK1 1　東南アジア・南方 2　ヨーロッパ F33　アメリカ 4　中国 5　朝鮮 資料1「末吉船」の物語文 TK2 1　とても危険な航海だ F22　たいした危険はなかった 話し合いの間TK1の%を記録 TK3 F31　思ったより多い 2　思ったより少ない
2　海外発展の理由 ・大商人の場合（末吉）について調べる ・商人や職人，武士が多く海外へ発展したわけについて考え話し合う ・山田長政について資料を読む	25′	〈大変きけんな航海だったのに多くの人たちがどうして海外へ出かけたのだろうか。〉 ・貿易をして金もうけをするため ・外国へ行ってみたい ・自分で自分の力がためしたい ・偉い人になりたい 末吉船は2倍の利益があった 日本人で日本町も作って生活した 船主は莫大な利益があった 山田長政のように異国で王になった人もいる 武士や商人や職人が多く活躍した	TK4 1　金もうけ 2　好奇心 3　自分の力をためす F34　名をあげたい 5　日本ではうだつがあがらない 6　自由がほしい 7　キリスト教が禁止されたから 8　日本では職がない ○この中から2つ重要だと思うものからキーをおす 資料3「日本人のようす」文庫 資料4「山田長政」の文庫 TK5 1　武士 F32　商人 3　職人 F24　農民 5　キリスト教徒 6　文化人
3　その頃の日本人の心意気について	10′	きけんな航海をのりこえて，海外へ発展した人たちは，大きな希望に燃えて，活躍したのだ	

セイトウリツ　ﾊﾟｰｾﾝﾄ

S	P	0---10---20---30---40---50---60---70---80---90--100
10	86	**********
20	89	**********
30	89	**********
40	89	**********
50	89	**********
60	89	**********
70	86	**********
80	86	**********
90	86	**********
100	86	**********
110	83	**********
120	78	**********
130	78	**********
140	78	**********
150	78	**********
160	78	**********
170	75	**********
180	75	**********
190	78	**********
200	78	**********
210	78	**********
220	75	**********
230	75	**********
240	75	**********
250	72	**********
260	72	**********
270	72	**********
280	67	**********
290	61	**********
300	61	**********
310	53	**********
320	53	**********
330	53	**********
340	53	**********
350	53	**********
360	53	**********
370	56	**********
380	56	**********
390	56	**********
400	53	**********
410	53	**********
420	53	**********
430	53	**********
440	53	**********
450	53	**********
460	53	**********
470	53	**********
480	53	**********
490	53	**********
500	53	**********
510	53	**********

数人いることは，まだ世界地図を学習していないことが大きく影響していると思い，世界地図（ＴＰ）を教えた。

（ＴＫ２）

学習は流れて資料１が中心となった。この資料は末吉孫左衛門がフィリピンのマニラで貿易した時の物語文である。

C_1　風を利用して航海しているので，風向きが変わればとんでもないところへ流れついたと思うから，とても危険な航海だったと思う。

C_2　風を利用するといっても，季節風はいつも同じ向きから吹くのであるからたいして危険はないと思います。それに20日間もかかってゆっくりゆっくり行くのですから，安全だと思います。

C_3　でもやはり危険だと思います。ゆっくり行くといっても嵐がくれば小さな船だからひとたまりもなくやられると思います。

このような話し合いを続け，子器のボタンを押させたのが前のページの表である。

１はとても危険な航海だ。２はたいして危険はなかった。この２つを話し合いの間ずっと押し続けたものである。最初89%が危険であるといっていたのに，120秒後には78%となり，300秒後には61%，400秒で53%と移行し，約半分が危険，半分が危険ではないとの意見で固定したことになる。

なおＳはタイムの経過を表わし，Ｐは%，１を押した数字が記録されている。

50%台にまで１が下がったきっかけは，Ｓ児が海外へ10万人余も出ていることを資料から見つけた結果であり，Ｓ児の意見10万人余は金沢の人口の４分の１，これだけを長くない期間に運んだのは難破などほとんどなかったからだと思います。この意見に大きく影響されている。

この話し合いの最後が次の記録である。

１番53%，２番47%が読みとれるし，だれが危険であるかの意見をもっているのかも記録されている。

*	*	001	001	*	002
001	002	001	002	002	*
001	002	002	002	001	002
001	002	001	001	002	002
001	001	001	002	002	002
001	001	001	001	002	001
002	*	001	*	001	001
				〔	001S〕

1　危険である。
2　たいした危険はなかった。

（ＴＫ３）

学習は海外に出た人数の多寡に変わり，思ったより多く出ていると思う者が24名と66.7%をしめている。

*	*	001	001	*	002
001	002	002	001	002	*
001	001	002	001	002	001
001	001	001	001	002	001
002	002	001	001	001	001
001	001	001	001	002	002
001	*	001	*	002	001
				〔	001S〕

1　思ったより多い。
2　思ったより多くない。

（ＴＫ４）

大変危険な航海だったのに多くの日本人がどうして海外へ出かけたのだろうか。

児童の多くは金もうけをするためだ。いや江戸幕府が多くの大名を取りつぶしたために職のなくなった武士が職を手に入れるために出かけたんだ。話し合いの途中で記録したのが次のフォーマット３の結果である。

*	*	015	071	*	014
018	017	014	081	076	*
086	067	013	018	081	115
081	017	081	061	087	015
015	018	017	017	013	058
018	017	067	081	012	018
018	*	01.6	*	014	021
				〔	001S〕

１の金もうけのためが22人と61%，ついで８番の日本では職がないため外国で生活すると考えた者７名の19%となり，この２つで80%となる。なお，２つずつ選ばせてあるので，２番目に１を答えたものが８名と最初の１番と合わせれば83%が金もうけのためということになる。これには貿易の利益を「ひざをたたいて喜びました」という末吉孫左衛門の資料が大きく生きていると考えられる。話し合いもキリスト

教禁止や，身分制度で自由がないからだと，まだ学習がなされていないために追求できず，数人の児童が先行学習で発言しているが学級の大勢にならなかったのは残念であった。

（ＴＫ５）

最後に実施したのが，どんな身分の人達が海外へ多く出かけたのか。に話題が集中した。武士は12人と33%，商人が14人で39%，あとキリスト教徒に職人ということになり結論の出ないままに本時の学習を終えた。

(3) 学習後の評価

単元の単習を全部終わり，2週間後の11月5日に実施したのが次の評価である。事前調査と比較するため，また，テンキーを使用しての学習中のデータと比較するために，問題は最初のものをそのまま使用した。

①日本人が海外に進出したのは何時代で何年前までであったか。

これに対して，室町時代の終わりから江戸時代のはじめまでが89%と予想をはるかに上まわる結果が出た。何年前までは300年が74%と時代よりも不正確な答えが多く出たが，このような数字にまで多くの期待は無理であろう。

②朱印船の活躍した地域はどの方面でしたか。

東南アジア・南方が88%で第1位，あとは中国，朝鮮と4人が答えている。

③日本での朱印船の主な基地はどこだったでしょう。

長崎・堺63.3%，堺・長崎22.1%，平均5%

④日本から輸出したものはどんなものでしょう。

金・銀・銅・いおうと正確に答えたもの62%，輸出と輸入の混乱しているもの31.6%とふるわなかった。

⑤日本が輸入したものはどんなものでしょう。

生糸・皮・鉄砲・火薬・雑貨の順で3つ以上答えたものが74.6%，2つ以上が16.3%と輸出よりも定着の度合いは大きかった。

⑥日本町で知っている町の名はどこですかいくつでもあげなさい。

シャム32人，マニラ31人，アユチア5人，マカオ5人

⑦日本町で活躍した人はどんな人たちだったでしょう。

商人29人　武士22人，キリスト教徒18人

学習中のデータをこの3者が大きく上まわり，事実に近づいたことになる。実際に日本町を形成し活躍したのは貿易商人とキリシタンが中心であったことを考えると江戸時代の学習中鎖国の学習後に訂正する必要がある。

(4) 観察者による評価

（ア）　授業協力者の評価

個々の児童に問題意識が明確になっていることを確認したうえでスタートした授業であった。そこで，我々は，それぞれの児童が，どのように問題解決をはかっていったのかを明らかにするため，授業記録の中から児童のおもな思考の流れをチェック・アウトすることによって，解決の過程を分析してみたい。

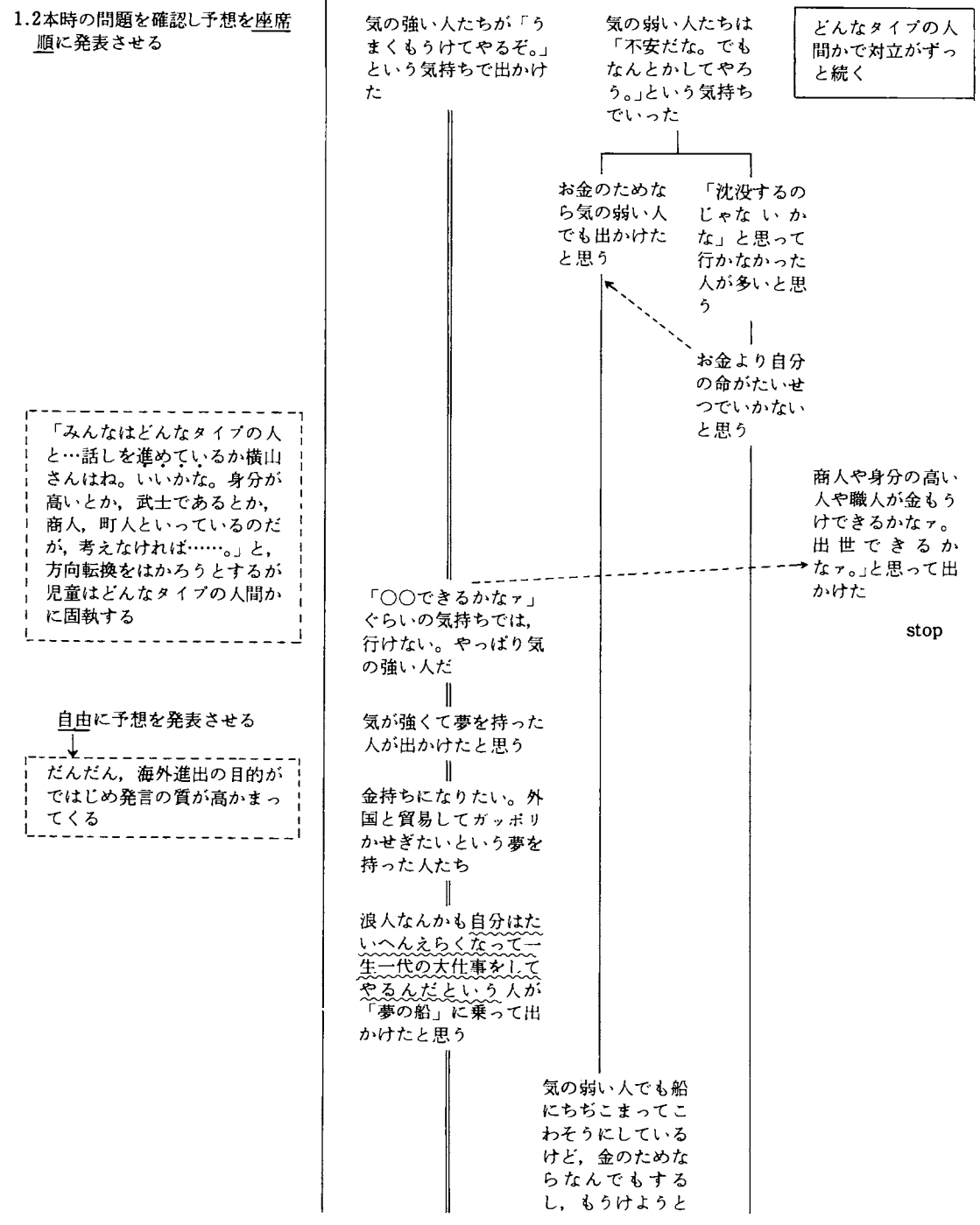
児童が主体的に活躍し，個々の児童の考えが大いに生かされた授業であったが，やや考えさせられた点について少し述べてみたい。

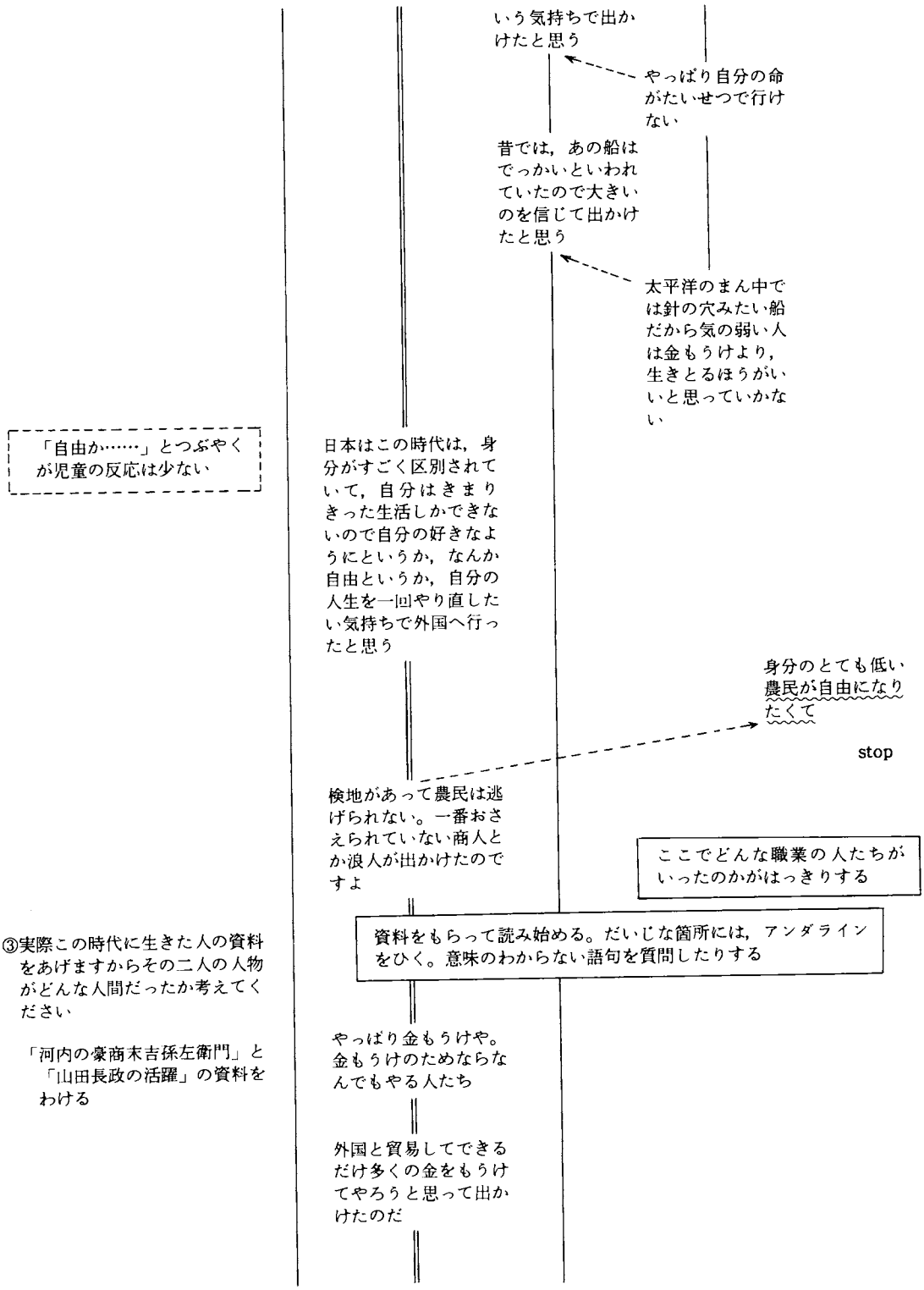
一番の問題は，教師と児童との間に，課題の受けとめ方にズレがあった事ではないだろうか。これは，この図の児童の課題解決の過程をたどれば，はっきりとわかる。

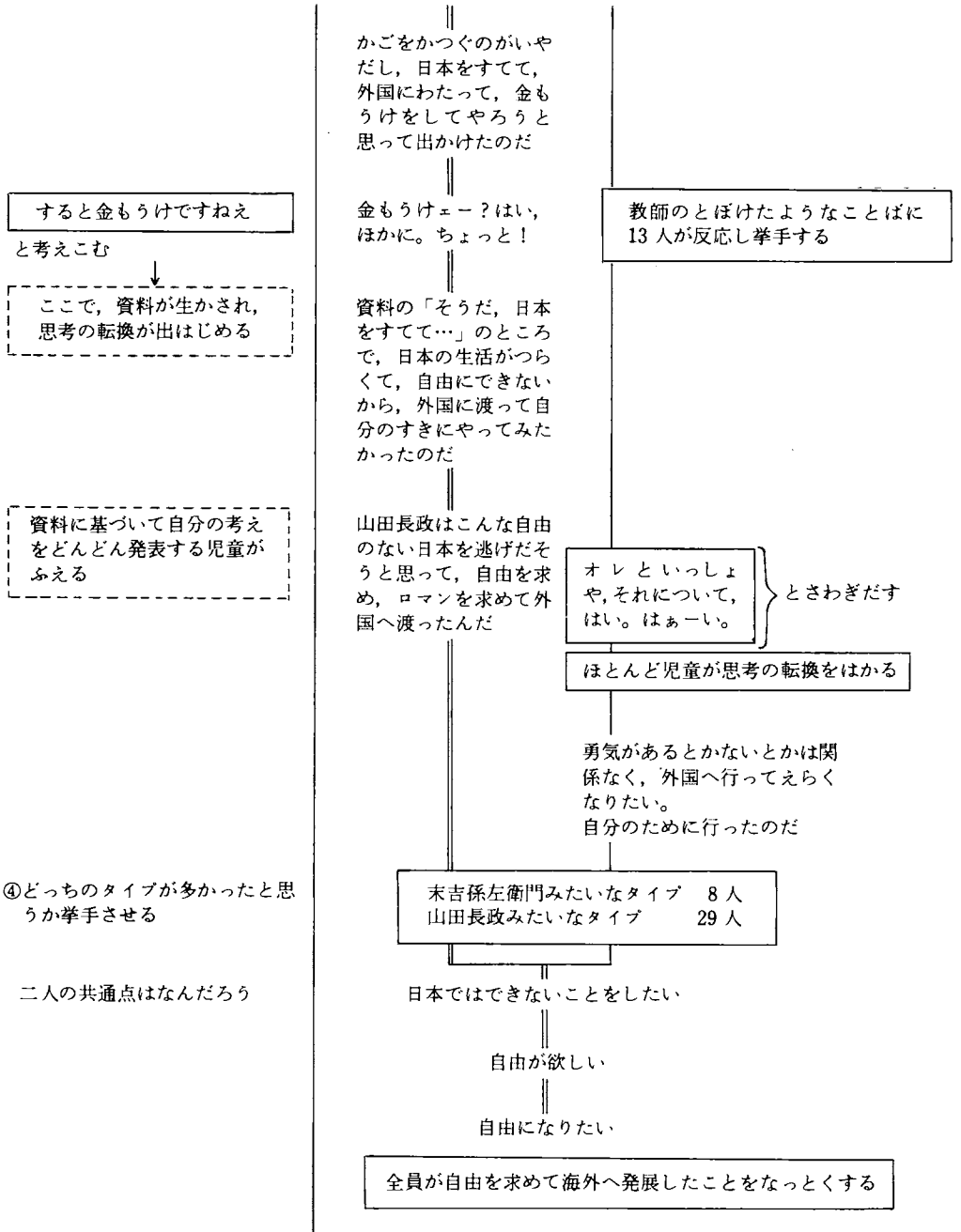
まず，児童は，どんなタイプの人間が海外発展をしたのかで，28分間にわたって対立の場が続いている。教師の意図は，どんな目的で……をねらっているのに，児童の方は，あっさりと，金もうけのためとかたずけてしまい，どんなタイプの人間かで討議が活発に行なわれている。しかし，28分間のうち14分間は，夢を持った人とか，えらくなりたいために……とか，予想の発表が自由になってからは，徐々に質の高い発言が見られるようになっている。また，児童の方から「自由」という発言もあり，教師も「自由

課題解決の過程

教師のおもな働きかけ	児童のおもな思考の流れと課題解決のようす




いう気持ちで出かけたと思う
やっぱり自分の命がたいせつで行けない
昔では，あの船はでっかいといわれていたので大きいのを信じて出かけたと思う
太平洋のまん中では針の穴みたい船だから気の弱い人は金もうけより，生きとるほうがいいと思っていかない
「自由か……」とつぶやくが児童の反応は少ない
日本はこの時代は，身分がすごく区別されていて，自分はきまりきった生活しかできないので自分の好きなようにというか，なんか自由というか，自分の人生を一回やり直したい気持ちで外国へ行ったと思う
身分のとても低い農民が自由になりたくて
stop
検地があって農民は逃げられない。一番おさえられていない商人とか浪人が出かけたのですよ
ここでどんな職業の人たちがいったのかがはっきりする
資料をもらって読み始める。だいじな箇所には，アンダラインをひく。意味のわからない語句を質問したりする
③実際この時代に生きた人の資料をあげますからその二人の人物がどんな人間だったか考えてください
「河内の豪商末吉孫左衛門」と「山田長政の活躍」の資料をわける
やっぱり金もうけや。金もうけのためならなんでもやる人たち
外国と貿易してできるだけ多くの金をもうけてやろうと思って出かけたのだ


かごをかつぐのがいやだし，日本をすてて，外国にわたって，金もうけをしてやろうと思って出かけたのだ
金もうけェー？はい，ほかに。ちょっと！
教師のとぼけたようなことばに13人が反応し挙手する
するとお金もうけですねえ
と考えこむ
ここで，資料が生かされ，思考の転換が出はじめる
資料の「そうだ，日本をすてて…」のところで，日本の生活がつらくて，自由にできないから，外国に渡って自分のすきにやってみたかったのだ
資料に基づいて自分の考えをどんどん発表する児童がふえる
山田長政はこんな自由のない日本を逃げだそうと思って，自由を求め，ロマンを求めて外国へ渡ったんだ
オレといっしょや，それについて，はい。はぁーい。
とさわぎだす
ほとんど児童が思考の転換をはかる
勇気があるとかないとかは関係なく，外国へ行ってえらくなりたい。
自分のために行ったのだ
④どっちのタイプが多かったと思うか挙手させる
末吉孫左衛門みたいなタイプ　8人
山田長政みたいなタイプ　29人
二人の共通点はなんだろう
日本ではできないことをしたい
自由が欲しい
自由になりたい
全員が自由を求めて海外へ発展したことをなっとくする

か……」とつぶやくが，ほとんどの児童に受け入れらずある児童が「身分の低い農民が自由になりたくて……」と発言したが，これは，優秀児につぶされてしまう。たとえ，ちがった意見でも，ここで教師は，全員の児童に，その頃の社会背景を想起させたらよかったのに…と思う。この時に教師の助言があれば，発言した児童も救われるし，もっと多くの児童が海外発展の目的を，真剣に考えたのではないだろうか。つまり，教師が資料を与えても，まだ金もうけに固執しており，「金もうけねえー」で，教師の考え込む動作で，初めて思考の変容が始まるのである。ここに来るまでが，約45分。つまり一時限要したことになる。ここからあとの変容ぶりには驚くかぎりである。わずか6分間ぐらいで，全員の思考が「自由になりたい」という心意気にまで達しているのである。

授業が終わる寸前で，ねらいに達した教師の技量には敬意を表したい。しかし，ほんとうに，子どもの心の中に，ことばとしてでなく，実感として心意気がとらえられただろうか疑問に思う。こう考えてくると，基本的なことだが，学習課題の重要性を改めて知らされたような気がする。

（イ）　野田学級の教育学部学生の評価

授業を見せていただいて気づいたことを列挙すると以下のようになる。

①児童のＯＨＰによる説明がうまい。

ＴＰシートに描かれていた図は，みな個性豊かなものであり，その時代の人間の心情をうまく表現していた。ここにおいては上位，中位，下位の区別は全く見られなかった。

②全員参加の授業である。

授業記録から明らかなように，教師は指名やK.R.を入れても76回しか話されていないが，児童はのべ95人が発言している。

③少々過熱気味である。

全員参加はよいが，次々に発言がとび出る。第2分節は児童が教師の予想を上回る活躍をした，と教師は語られ，それが予定時間を20分オーバーした原因のひとつといわれる。ここでは，自分の考えをノートなどに書いてはっきりさせるというような冷却期間があってもよいのではなかったかと思われる。

④教師と児童との間にわずかなズレがある。

教師のいう「どんな人」とは「どんな目的をもった人か」を指していたのである。しかし，児童のなかには「どんな気持ちの持ち主」と解した者が何人かいたようである。

⑤「心意気について」の理解という困難なねらいにもかかわらず，教師はあくまで社会科の授業として遂行されている。

⑥資料の読み方，解釈の仕方が訓練されている。

社会科における資料は，理科の実験に相当するものと思われる。それゆえ，資料の解釈しだいで，授業の質が規定されることがあろう。このクラスの児童は，資料に基づいて自分の考えを述べていた点に，感心した。それと同時に，社会科における上位，中位，下位の差は資料の読解力に左右されるのではないかと思った。

この点については，上述した④⑤の観点と，また抽出児の観察という点をも絡めて以下考察を進めたい。

まず上位に属するＡ児について見てゆきたい。上位にいるだけあって，資料の読みとり方がうまい。記録にもあるように，重要と思われる箇所には線を引き，ポイントと記入している。また発表をする際には，資料のポイントに基づいて「○○と書いてあるから△△だ」と述べている点が注目される。

しかし，彼女の場合国語的な読みとりの傾向が強いようである。それは，与えられた資料から「山田長政はこういうタイプの人。末吉孫左衛門はこういう気持ちの持ち主」という発言でわかるように，その時代を代表する人物としてではなく，一人の個人としてとらえている。このＡ児の考えを変容させるために教師は「なぜ，なんのために，外国へ行ったのか」とか，時代の人物傾向を握むための発問として「長政タイ

ブが多かったか，孫左衛門タイプが多かったか。二人の共通点は何か」と問われている。ここに前述したように（④⑤）教師と児童のズレ，またあくまで社会科として授業をされている一面がうかがえよう。それにもかかわらず，彼女の場合，授業終了まで国語的な解釈をしている。その点において変容は見られなかったというほうが妥当であろう。（ただし，一時間の授業のみで，結論をいそぐわけにはいかない。A児の場合，この授業1時間においてという条件のもとにである。）

次に，中位群のB児について。彼の場合，発言というオーバートな行動が1回きりなので，どう変容しているかわからない，というのが本音である。しかも発言が第2分節のものであり資料が与えられていない段階であるため，はっきりしたことがいえない。ただ発言からみる限り，その時代の人々の海外進出の目的について論じていることがわかり，教師のねらいからはずれていないようである。資料に関しては，ポイントと思われる箇所に線を引いたりしているが，他人の発表を聞いてさらに線を引くといったところもみられる。先ほども述べたように，B児の場合はこの程度で変容したかどうかについては明言をさけたい。

終りに，下位群に属するC児について記し，さらに資料と個の変容について触れておくことにする。彼の場合，初めから海外進出の目的は何かという視点で授業に臨んでいる。結論を先にいうと，この授業において彼自身は変容しているのである。時間の前半では「金もうけのために行く」と述べているのに対して，資料配布後には「ぼくは少し意見が変って…略…自分のためには行く」と発言している。これらからもわかるように，彼は海外へ行く目的という限定された対象に対して観点を変えるという変容ぶりである。

ところでC児の場合，初めにＴＰシートを用いて実にうまく説明していた。ここにその図を載せられないのが残念である。お金で頭がいっぱいの人物を描いてあるシートによる説明はまことにその時代の人物傾向を示すのに適確であった。しかし，配られた資料の読みとりは，不十分といえよう。資料に基づく発言がないことからもそれがうかがえる。こう考えるとC児の場合，映像的・視覚的なものの読みとりや，それの利用はうまいが，文字メディアはどうも苦手といえるかもしれない。それゆえ文字メディアの読みとり方，解釈がクラスの上・中・下位を決定している一因かもしれないと思われる。

こうなると，個の変容をよい方向へ促すためには，子ども一人ひとりに適した資料を与えるということが必要になってくるであろう。もし今回の資料が文字だけでなく，ＶＴＲやスライド，8ミリフィルムなども加わっていれば，多くの子どもに今以上の変容が見られたかもしれない。この学級の教師は，児童の要求にあった資料を一人ひとりに与えられている。そんな教師の熱意に敬意を表するとともに，今後児童が教師に，本や図という印刷物だけでなく，8ミリフィルムやＶＴＲなどの映像メディアを要求するようになることを期待したい。児童一人ひとりの要求にあった資料の提供，それが，個の変容を促す一因となるかもしれないからである。

(5) 授業者による評価

授業について

授業記録をみてもわかるように，本時の授業において，子どもたちは，天下統一の世の中に外国へ出かけていった人々のようすや彼らの気持ちや考え方について，資料をもとに子どもらしい発想でいろいろと考えていたと思う。しかしながら，気の強い人か気の弱い人かという論争にみられるように，本時のねらいとは少しずれた観点で話し合いが行なわれる場面もしばしばみられた。授業者の立場としては，当時の人々の気持ちや考え方を想像させることにより，当時の世の中にみなぎっていたと思われる，夢やロマン，自由への願望といった時代の雰囲気を

つかませることにあった。話し合いが進むにつれて授業者の意図に近い発言もみられるようになった。また，資料「山田長政」をあたえたことにより，彼の人物像，業績を通して，当時のイメージをつかむ児童も多くみられ，一応，成果はあったと考えられる。(野田)

実施後の反省

身近な児童の考えが一時限分そのままのっているので最低限どんなことを学習するか全員が理解できていた。「安心だ」と感想を述べる子もいた。

その反面，国語の読解力があるかないかによって読みの深浅が強く，付加すべき用語や考えについては全員の学習参加が認められるが，「考えや意見」の意味と資料の活用を併合したより高度な学習は極く限られた児童の活動におわった。

さらに本時のねらいについて主も情意面に関する心意気は「感想でいいがか」の発言に代表されるように思い思いの感想に陥ち入り，社会科の学習より道徳ないしは読書指導の範疇に入ってしまうようなものが多かった。

このことからマイクロテーチング利用の利点としては

①学習事項や発表内容が一応見直せるので児童は安心して学習に参加できる。

②資料の利用についてもマイクロテーチングより多くのものをこまかく見ていくことができる。

といった点が児童の反省からも窺えた。反面，次のような欠陥があげられる。

①ひとりひとりの関心の差が非常にはっきり目にも見えるため集団思考がやり難い。

②これは学習集団としてはありえないのが当然なのであろうが，可逆性が強い学習過程になりやすい。具体的にいいえば8.「山田長政をどう思うか」という進度の際に「山田長政はどうして海外へいったのか，金もうけが目的か身分をよくしたいのだったか」などと改めて疑問を投げかける子がでてきた。このため思考が混乱してしまったことなどである。

③社会の学習であるが国語的な追求に興味をもっている児童にはマイクロテーチングの表記にこだわりを見せ，学習興味を失うこともある。

今後に残された問題

マイクロテーチングを模擬授業からでなくもっと教師の指向性をはっきり盛り込んだ形で使うことができないか。

また，授業の中では付加すべき事項や疑問点を整理してから授業を進めるのではなく，ロールプレーイング的にマイクロテーチングを活用できないだろうか。そしてより社会科学習で欠けると言われてきた情意面では読後感的な取り扱いをむしろ積極的に取り入れてみてはどうかと考えている。(花外)

本時の学習を終えて

南蛮貿易と日本町は従来あまり深く取り上げられなかった教材である。扱われたとしても，鎖国を扱う段階でキリスト教と関係づけての学習が殆どあったといってよい。その点，ここでは海外に進出した日本人の立場をいろいろな角度から眺めてみることに主眼をおき，教師は資料の提供はするが，学習過程は児童の主体にゆだねた。6年生の歴史教材として妥当であるのかどうか，また，6年の児童の理解，思考の限界がどこにあるかを見きわめようとしたからに他ならない。振り返って，児童の生き生きとした発言や，論理にかなった話し会いを聞くにつけてもこの教材は当を得たものであり，海外における日本町を歴史的事実の一こまとして児童と共に考えることの意味を大きく見出だしたといってよい。(屋敷)

6　研究のまとめと反省

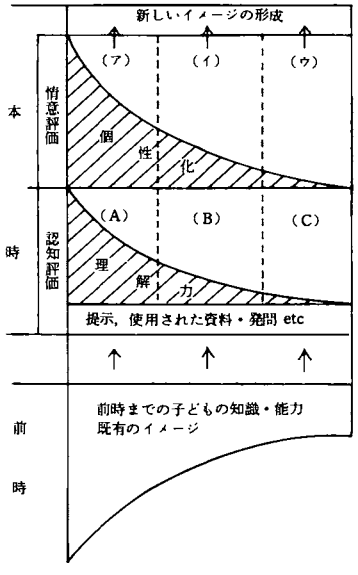
新教材ともいえる「南蛮貿易と日本町」をとり上げた今回の授業研究をふり返ると，次の二つのことが特色として浮かび，また研究の成果として確認できるように思える。

(1)　歴史学習の目標設定は，分析的に客観性

を出せる部分と，多分に設計者の教材観に重点がかけられる部分があるということ。これは特に，人間の価値観の多様性及び児童が既有している情意的な側面の力の多様性が，どうしても歴史の学習では大きな影響を与えざるを得ないということにつながるからである。我々は，今回の実践を通して，小学校の社会科学習全てにも通ずるであろうこの両者の共存性を再確認した。

(2) 児童の思考のすじ道をより明確にするために利用したマイクロテーチングの手法のとり入れが，様々な部分で利用可能だという大きな効果をみつけたこと。子どものノートされたものから，あるいは発言を集約したものから作成される思考のルートマップと違って，わずかな人数で，わずかな時間で，分節ごとの児童の思考のようすが明確にされるこの方法は，今後新教材の子どもの出方を明らかにするためにも，資料・発問の適切さを確かめるためにも，又評価の方法としても大いに利用される部面があることがわかったということである。子どもの思考や認識の変容を，いかにして追跡するかが我々にとっても，大きな問題のひとつであったがこの方法を利用することによって，ある程度可能になったのではないかといえることも成果のひとつである。

また我々は，一人ひとりの児童の評価は，右図のようにとらえることができるのではないかとも考えた。



（A・ア）のタイプの子は，認知・情意面共に最も望ましいタイプであるが，しかし（A・ウ）のタイプの子も多分にいるわけであるし，逆に（C・ア）のようなタイプの子も現実には存在するわけである。それに，前時の部分を付加して考えると様々なタイプが生み出されるが，この点を客観的な手法で明確にすることができなかったのが残念である。と同時にこれからの我々に課せられた方向ともいえよう。